

女子リーグ「クイーン・リーグ (Q リーグ)」、中学生リーグ「ニュー・エイジ・リーグ (N リーグ)」

第 6 期 2025-2026 第 8 戦：わたらせクリテリウム第 2 戦・レースレポート

9 月 13 日 (土)、蒸し暑く、時折雨も降るコンディションのなかで栃木県栃木市・わたらせサイクルパーク内においてリーグ第 8 戦「わたらせクリテリウム第 2 戦」が開催された。



エスパワー B クラスでスタートする参加選手たち (Photo:QN リーグ事務局)

今大会は宇都宮ブリッツェン主催で 2022 年からシリーズ開催がスタートした、わたらせサイクルパークの完全クローズされた 1 周回＝約 1.1km を走るクリテリウムレース。全 4 回の開催であるが、第 2 戦の今大会からコースが右回り（時計回り）になる。そのため広い道から狭い道に入ることが多く集団が縦に伸びやすい。また最終コーナーからゴールラインまでの距離が今までよりも若干遠いため、コーナーの立ち上がりのライン取りやスプリントを始めるタイミングも肝になりそうだ。



左：朝の試走時には宇都宮ブリッツェン小野寺選手と廣瀬 GM による初心者クリニックがおこなわれた
右：「スキルアップ！スクール」はジュニア選手を中心に参加者が集まった (Photo:QN リーグ事務局)

会場は朝から天候が優れないながらも、逆回りになったことでメイン会場からゴール地点への出入りがしやすくなったこともあり、観戦がしやすくなった。レース以外の企画では、弊リーグ主催スクール企画「スキルアップ！ロードレーススクール」の併催などさまざまなイベントも実施され、会場では出展ブースやキッチンカー周辺も賑わい、ゲストには宇都宮ブリッツェンから小野寺 玲選手や廣瀬 佳正 GM の登場もあって会場は盛り上がった。

午前 9 時 30 分から開始のレースと並行して、周回コース内側を利用して QN リーグ主催の「スキルアップ！スクール：まもなくシーズンイン！シクロクロスから学ぶコントロール術」を開講。今回は、女子と中学生以下のジュニアに合わせた内容でスクールを実施した。

まずは自転車に乗る準備が完了してからでもできる準備運動と、ヘルメットの位置合わせや自転車のブレーキなど走行前チェックの手順を指導。その後は U ターンを含めた走行で集団走行を指導。特にブレーキだけでなくペダリングでもスピードを調整するコツを覚えてもらった。さらにシクロクロスレースでも重要な 2 列や 3 列走行も U ターンを行ないながら、注意ポイントを実感させた。



スクール講師からの集団走行レクチャーを熱心に聞く参加選手たち（Photo:QN リーグ事務局）

集団走行後には、シクロクロスのレーススタートと同じ整列方法でスタンバイしてのスタートダッシュを実施。素早くペダルをキャッチし、下を向かずに真っ直ぐ前方を見てスムーズにスタートするコツを掴んでもらった。また繰り返しスタート練習をすることで、発進しやすいギア比の把握も含め上手なスタート方法を会得してもらえた。

その後、乗車中におけるペダル加重、および体重を自転車の上で前後・左右に移動させる感覚を覚えてもらい、休憩の後には弊スクール名物にもなっている「ボトル渡し」や「サコッシュ渡し」のコツを指導

しながら、何度もスムーズに渡せるように反復練習。スクールは休憩を挟みながら約 2 時間で実施。自転車レースを将来にわたり長く楽しんでもらえるよう、今後も上手にコントロールするコツをゲーム感覚で覚えられるスクールを続けていきたい。



ボトル渡し（写真左）やサコッシュ渡し（写真右）も実施しながら、自転車を上手にコントロールするコツを覚えてもらった。ゲームのようにおこなうことで、遊び感覚で学べるのも大事（Photo:QN リーグ事務局）

午後からはさらに気温が上がるなか、いよいよ N リーグの中学生男子（N）と女子（NW）対象のエスポワール各レースがスタートとなる。各クラスは、C が小学 4 と 5 年生の男女、B が小学 6 年生と中学 1 年、A が中学 2・3 年生と細かく分かれており、N リーグでは中学 1 年生が対象の「エスポワール B」、そして中学 2・3 年生が対象の「エスポワール A」の 2 つに分かれるため、それぞれのレース完走者にリーグポイントを付与することになっている。これにより、わたらせクリテリウムでは、特に中学 1 年の N リーグ登録選手にとって大量ポイント獲得のチャンスとなるのだ。なお今大会は女子の単独クラス設定が無いため、Q リーグは対象レースから除外している。



厚い雨雲が垂れ込める中、スタートに着くエスポワール C の参加選手たち（Photo:QN リーグ事務局）

大きなチャンスとなるespoワール B は午後 2 時にスタート。出走は 18 名で、コースインから約 3/4 周回を小野寺選手の誘導でスタート地点へ、ゆっくりと走行しながらウォームアップ。そしてスタートラインに整列し、6 週のレースが幕を切った。1 周目は 18 名が 1 つの集団だったが、2 周目に入って間もなく 5 名が飛び出す。そのなかには、前回の QN リーグ第 7 戦「しもふさクリテリウム 9 月」小学生チャンピオンクラスで、2 位以降を 1 分半近く引き離す圧勝を決めた #1-PRIMERA-所属の山田 大夢（ヤマダ ヒロム）も含まれており、この日も先行集団の頭を引っ張りメイン集団からタイム差が開いていく。



左：2 周目から形成された先行集団。ブラウ齋藤を先頭にして 5 名で回して後続を引き離す

右：3 周目からアタックを決め単独で先頭に出た PRIMERA 山田は、その勢いのままゴールし優勝

3 周目には積極的な走りを見せていた PRIMERA 山田が、一緒にメイン集団から抜け出したメンバーを置き去りで単独先頭に。その後ろを追いかける 4 名は、山田のペースが落ちないせいかさらにバラバラに崩壊し、長谷川 誠（ブラウ・ブリッツェン U15）と満山 塔亜の 2 名、そして少し離れて齋藤 時成（ブラウ・ブリッツェン U15）と宗 息吹（ブラウ・ブリッツェン U15）の 2 名に割れる。



左：2 位争い集団の満山（右）と長谷川（左）は、最終ストレートで飛び出した長谷川に軍配が上がる

右：4 位争いはブラウ同士の一騎打ち。ゴールスプリントで齋藤が 4 位に（Photo:QN リーグ事務局）

残り 2 週の時点で、山田を追いかける長谷川と満山とのタイム差が 10 秒、その後ろの齋藤と宗とはさらに 2 秒差であったが、残り 1 周ではそれぞれ 12 秒と 7 秒差まで開いていき、その後方は集団が分かれ

ていた。相当、山田のペースが速い。そしてゴール直前では、山田を追う長谷川が満山を切り離し 6 秒差まで迫ったものの、小学 6 年生の山田が単独で逃げ切りに成功し優勝した。N リーグのブラウ長谷川は単独 2 位でゴール、満山が 3 位に入り表彰台を獲得。続いて 4 位には N リーグの斎藤、5 位に宗が入りランキングポイントを多く獲得することができた。



エスポワール B の表彰式。左より 2 位・長谷川、優勝・山田、3 位・満山 (Photo:QN リーグ事務局)

続いてのスタートがエスポワール A。出走 24 名のなかには、先週の QN リーグ第 7 戦「しもふさクリテリウム 9 月」でバトルマリンジャージを奪還したばかりの渡邊 公太 (ブラウ・ブリッツェン U15)、現在 N リーグ・ポイントランキング 2 位の東理 日楠詩 (Team FITTE)、3 位の高橋 琉登 (Komami.Racing)、4 位の神戸 雅渡 (保土ヶ谷.Bro)、5 位の白石 大河 (Komami.Racing) と、この時点でのランキング TOP5 がスタートに並び、レース展開に期待が一層高まる。



エスポワール A のスタートライン。前列には (左から) Komami 高橋、FITTE 東理、そしてバトルマリンジャージのブラウ渡邊など N リーグランキング上位選手たちも並ぶ (Photo:QN リーグ事務局)

スタート直後、最初に飛び出したのは FITTE 東理。その勢いは凄まじく約半周まで単独で先頭をキープして走る。このペースアップで集団は 1 列棒状となって 2 周目に突入したところに雨が降り始めたタイミングで、今度は FITTE 東理とブラウ渡邊の 2 名が集団から飛び出す。このような先行が出現すると追う選手達はスピードアップを図りたいが、雨で少し暗くなり路面が滑りやすくなったことでコーナーのコントロールが難しくなり、追走集団は割れて先週の対象レースで 3 位入賞の活躍を見せた N リーグの佐谷 輝成 (#1-PRIMERA-) に Komami の高橋と白石、保土ヶ谷 Bro 神戸、横田 壮一郎 (Fine nova LAB) の 5 名が、東理と渡邊の後方 5 秒の位置に残された。



左：先行する FITTE 東理（右）とブラウ渡邊（左）は、先頭交代しながら後続を引き離していく

右：先行する 2 名を追う 3 位争いの集団もペースが落ちず、大きくタイム差が開くことが無かった

この後は、最終周回まで先行する 2 名と追走集団 5 名のタイム差が 5 秒から 10 秒の間で変化しながらも、ほぼ状況は変わらず。一方、女子で唯一このクラスへ出走となった、N リーグ中学生女子 NW でポイントランキング 2 位の板垣 美希 (BELLE EQUIPE) は、後方集団の男子選手達と集団を形成し走行していたが、最終周回のコーナーで濡れた路面で滑ってしまい板垣は集団から脱落。途中では 20 位前後で推移したが、あと僅かでトップとの同一周回を逃す惜しい結果となった。しかしゴール後には「落車してしまいましたが、コース横の芝地に入ったので怪我は無く自転車も無事でした。次回のリーグ対象レースでも頑張ります！」と元気にコメントしてくれた。



左：QN リーグスクールにも参加した板垣（中央）は、終始良いペースで走るもスリップしてしまい集団脱落

右：宮城県から参加した板垣は自転車コントロールに長けており、今後の注目株 (Photo:QN リーグ事務局)

さてトップでは、先頭 2 名が後続 5 名の追走から逃げ切ってゴールスプリントに。早めに仕掛けた渡邊が優勝を決め、東理が 2 位となりバトルマリンジャージは渡邊が防衛に成功した。この 2 名に遅れること約 7 秒できた後方集団が 5 名のままゴールスプリントとなり、先頭でゴールした Fine nova 横田が見事なハンドル投げで 3 位となり表彰台を獲得。4 位に Komami 白石、5 位が PRIMERA 佐谷、6 位 Komami 高橋、7 位に保土ヶ谷 Bro 神戸となった。このレース結果により、N リーグポイントランキング 3 位が Komami 白石に入れ替わった。



左：今レースも思いきりの良いスプリントで決めたブラウ渡邊が優勝しバトルマリンジャージを防衛
右：3 位争いのゴールスプリントは、ハンドル投げを決めた横田が競り勝った（Photo:QN リーグ事務局）

N リーグポイントリーダー授与式では、すっきりと頭を坊主に剃り上げた渡邊が副賞のアールエル賞品目録を手に、今回のレース展開の難しさを噛みしめながら「(東理と) 2 人で逃げ続けたのは、とても楽しかった」と振り返った。



エスパワー A の表彰式。左から優勝のブラウ渡邊と 3 位の横田。なお FITTE 東理は翌日の秩父宮ロード、翌々日 JBCF 南魚沼ロードと連戦へ移動のため欠席となった（Photo:QN リーグ事務局）

次戦の箱根ヒルクライムについては、ヒルクライムを得意とする東理との比較を聞いてみたところ「僕はヒルクライムが苦手なので、頑張って練習して勝てるようにしたいです!」と抱負をコメントし、声援に応えた。そんな渡邊選手の活躍に、プレゼンターとして登壇いただいた小野寺選手からは「このエスポワールの各レースは非常に楽しみにしてしまっていて、今回もプロさながらの熱いレース展開で楽しませてくれました!」とコメント。渡邊選手は宇都宮ブリッツェンの育成組織であるブラウ・ブリッツェン所属であることにも触れ「将来、宇都宮ブリッツェン加入へのステップアップという道もありますので、今後の活躍に期待しています!」と熱いエールも送っていただいた。



左：Nリーグ中学生男子の協賛アールエル賞品目録を手渡す宇都宮ブリッツェン小野寺選手（写真右）

右：日本自転車レースの将来を担うジュニア選手へエールを贈ってくれた小野寺選手（左）と笑顔の渡邊（右）

次戦は第9戦の10月5日（日）に神奈川県小田原市・アネスト岩田ターンパイク箱根で開催される「箱根ヒルクライム2025」となる。箱根ヒルクライムは普段、自転車では走行できないアネスト岩田ターンパイク箱根を、レース当日のみ特別に閉鎖して開催される大会。距離は13.4kmで平均勾配は7.2%という、日本国内で開催されているヒルクライムレースの中でも、かなり走りごたえのある登坂コースで、見通しの良い直線の急勾配が続くのが特徴。そのためいったん後続を引き離したとしても、なかなか視界から消えないので、ペース配分や折れないメンタルがポイントになるだろう。



昨年の同大会、中学生クラス・ゴールの様子（Photo: Kensuke Yada）

またスタートから約 10km 地点までは斜度がきつい一方、後半には下りもあり、ゴール直前でスプリントになることもある。昨年の中学生クラス優勝は FITTE 東理。スプリンターである現バトルマリンのブラウ渡邊が今年どう凌ぐか注目される。この箱根ヒルクライム以降は大磯、しもふさと平坦のクリテリウムレースが続くので、クライマーにとっては最後のチャンスでもあるので、そのレース展開と結果を楽しみにしていただきたい。



この後の N リーグ対象レースを見据え、少し緊張した面持ちのブラウ渡邊 (Photo:QN リーグ事務局)

今大会のポイントリーダー授与式では、Bioracer 様より「アメジストジャージ」「バトルマリンジャージ」各リーダージャージのご提供いただきました。また、Q リーグは株式会社 隼様より「アスリチューン Q リーグポイントリーダー賞」、N リーグ中学生男子 N は武田レッグウェア株式会社様より「RxL N リーグ中学生男子ポイントリーダー賞」、N リーグ中学生女子 NW はアイリス株式会社様より「EXLUB N リーグ 中学生女子 NW ポイントリーダー賞」を、それぞれ賞品ご提供いただきました。厚く御礼申し上げます。



左：エスポワール C 表彰。2 位・高柳 聡太郎、優勝の岡本 楓大、3 位・大和田 煌仁は豪華賞品を手に笑顔
右：エスポワール A のスタート前に健闘を誓う高橋と東理 (写真左)。 (Photo:QN リーグ事務局)

6 年目の今シーズンも日本国内の女子やジュニア選手達の活躍の場を広げるため弊リーグ運営を行な
ってまいりますので、引き続きご注目とご声援のほど、よろしくお願い申し上げます。

<レポート概要>

写真撮影：QN リーグ事務局

テキスト：須藤むつみ（QN リーグ事務局）

協力：宇都宮ブリッツェン、わたらせサイクルパーク

*わたらせクリテリウム第 2 戦公式ホームページ

<https://watarase-criterium.jp/race/1368/>

2025-2026 シーズン Q リーグ・N リーグ対象レーススケジュールはこちらから。

<http://www.jbrain.or.jp/q-n-league/race-profile.html>

次戦は第 9 戦となる 10 月 5 日（日）「箱根ヒルクライム 2025」です。

<https://hakone.gr-cycling.online/>

Q リーグ・N リーグ登録はこちらから。各対象レース開催日の 3 日前まで登録完了すればポイントラン
キングに反映。今後も女子とジュニア中学生が活躍するリーグにご声援のほどよろしくお願いします！

<https://moshicom.com/122291/>